

# ムラのミライ 活動レポート & ニュース

2024  
4

特集 ムラのミライの子ども支援

## CONTENTS

Report 1 子どもの権利の尊重にメタファシリテーションを

Report 2 子どもが安心して話せる大人を増やそう

「子どもの話を聴く技術」研修プログラム@大分  
ひとり親家庭支援者研修への講師派遣@兵庫

News 2024年度の新たな活動予定

Report 3 30周年記念募金のご報告



認定NPO法人ムラのミライ

住所 〒662-0856 兵庫県西宮市城ヶ堀町2-22 早川総合ビル3F  
電話 050-3096-6399  
Eメール [info@muranomirai.org](mailto:info@muranomirai.org)  
ウェブサイト <http://muranomirai.org/>

## Report1

# 子どもの権利の尊重にメタファシリテーションを

原 康子

ムラのミライ事業統括



## 子どもの権利と子どもとのコミュニケーション

2017年以降、ムラのミライでは、子どもとのコミュニケーションに力を入れてきました。それは大きく2つの方向性を持っています。1つは、子ども・子育て支援団体への伴走支援や研修、もう1つは、親・保護者に対する思春期の子どもとのコミュニケーション講座です。

特に、子ども・子育て支援に関わる方は、親・保護者とは異なり、一度に接する子どもの数が多く、一人ひとりの子どもに割ける時間が相対的に短くなります。ですから、子どもとの短い時間で交わす何気ない会話がとても重要なのです。このような支援の場では、子どもとのコミュニケーション技術だけでなく、そのバックグラウンドにある「子どもの権利」への理解が必要となります。子どもへの慈しみや保護といった「思い」だけではなく、「子どもは固有の権利を持つ独立した人格として遇されなければならない」という基本的な理解です。このような理解に基づき、ムラのミライでは子ども・子育て支援に関する事業や講座を実施してきました。

それが、これまでもニュースレターでご紹介した、西宮市での「地域で助け合う子育ての輪」事業（2018-2021年）や、対面やオンラインでの主催講座（2017年以降）、兵庫県の子ども・子育て支援者を対象にした「子どもの話を聴く技術」講座（コープともしびボランティア振興財団助成2022年度）、親・保護者を対象にした「思春期の子どもとのコミュニケーション講座」（2018年以降）などです。



## メタファシリテーションを活用した子ども・子育て支援

2023年度にはオンラインでの主催講座「子どもの権利にもとづく支援アプローチ」研修を5回実施し、10名の支援者にご参加いただきました。

また受託事業では、(特活)しげまさ子ども食堂-げんきひろば-(大分県豊後大野市)と(特活)こどもサポートステーション・たねとしづく(兵庫県西宮市)から、子どもの居場所(子ども食堂、野外活動、学習支援、民営ライブラリーなど)、訪問型家事・育児支援、ひとり親支援に携わる支援者への研修、実際に支援現場を見せていただく機会をいただき、ムラのミライとして様々な経験を積ませてもらいました。

さらに、NPOだけでなく、2つの地方自治体で、子ども・子育て支援担当職員の声を直接聞かせていただいたり、住民と行政職員が参加する協議会(子ども・子育てに関する支援施策計画、立案、モニター等を担当)へのオブザーバー参加機会をいただき、それがどのような組み立てで行われ、どのような課題に直面しているかも知ることができました。

これらの経験から、メタファシリテーションが、子どもとの日々のコミュニケーションの改善に役立つだけでなく、支援者間のコミュニケーションの改善、支援活動の分析、見直し、改善に向けた支援者間の共同作業や意思決定への活用、行政と住民とのパートナーシップに基づく協議会運営に活用できることがわかってきました。

## 2024年度の活動:休眠預金活用事業スタートなど

2024年度は、こうした伴走支援や研修を通じて得た経験を活かせるよう、休眠預金活用事業を実施していくことになりました。

それは「ひとり親家庭サポート地域拠点強化事業 ~ひとり親家庭が地域とつながる本と笑顔の居場所プロジェクト~」という事業で、一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)が公募する、資金分配団体(原油価格・物価高騰、子育て及び新型コロナ対応支援枠)にムラのミライが採択されました。

2024年4月から5月にかけて全国から実行団体を公募し、採択された複数の団体への伴走支援(事業運営・会計、連携・支援ガイドライン作成、子どもの権利を尊重したコミュニケーション技術の支援など)を行っていきます。ひとり親家庭への支援、民営の図書館運営などの経験のある団体が実行団体となり、ひとり親家庭の社会的孤立を軽減する取り組みの一つとして実施する事業です。

また昨年度に引き続き、子どもの権利の尊重を日々の活動や暮らしに落とし込むアプローチをご紹介します。主催講座、子ども・子育て支援者向けの研修や講師派遣、各団体の実情に合わせたオーダーメイドの伴走支援も実施していきます。



### 休眠預金活用事業とは

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」(休眠預金等活用法)に基づき、2009年1月1日以降の取引から10年以上、その後の取引のない預金等(休眠預金等)を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度。2019年度からスタートしました。  
ウェブサイト <https://www.janpia.or.jp/kyumin/>

# Report2 子どもが安心して話せる大人を増やそう-1 「子どもの話を聴く技術」研修プログラム@大分

期 間 2023年9月～2024年1月  
場 所 大分県豊後大野市  
協 働 (特活)しげまさ子ども食堂ーげんき広場ー  
助 成 豊後大野市 令和6年度市民提案型協働のまちづくり活動推進事業

## 豊後大野で子育て・子ども支援に携わる方々と

2023年9月から、大分県豊後大野市の子ども支援NPO(特活)しげまさ子ども食堂ーげんき広場ー(以下、しげまさ子ども食堂)と協働で「子どもの話を聴く技術」研修プログラムを実施しました。NPOスタッフのほか、子育て相談員や市役所職員、教員の方が参加されました。今はまだ子育て中だけど、今後子ども支援をしてみたいという方も、お子さんと一緒に参加されました。

 子ども・子育て支援者対象

### 「子どもの話を聴く技術」研修プログラム

子どもの話を聴きたいと思いつつも質問の言葉に悩むことはありませんか？  
「どう思う?」「どうしたい?」の質問に子どもたちが困った顔をしていませんか?  
大人が学び、投げかけを少し変えることで子どもの大切な言葉を受け取ることができるようになります。

・保育士 ・教師  
・放課後児童クラブのスタッフ  
・民生児童委員 ・大学生  
・自治体の教育、福祉担当者  
・子ども支援に興味のある方など  
みなさんの  
ご参加をお待ちしております!

《研修の日程》 **参加無料** ※全日程の参加必須

- 基礎講座 (2日間)  
子どもが安心して話せる「投げかけ」を理解する  
・9/16(土) 9:00～12:00 ※両日13:00～15:00事例検討  
・9/17(日) 9:00～12:00 (希望者のみ)
- フォローアップ研修 (オンライン) 9月下旬～10月上旬
- 実践講座 (2日間)  
子どもが安心して話せる「投げかけ」を実践する  
・10/21(土) 9:00～12:00 ※両日13:00～15:00事例検討  
・10/22(日) 9:00～12:00 (希望者のみ)
- フォローアップ研修 (オンライン) 11月
- 子どもの支援現場での報告会 1月

《研修会場》

- しげまさ子ども食堂 豊後大野市三重町内田4106-1

研修講師は認定NPO法人ムラのミライ認定トレーナーが担当します。  
研修の一部を動画でご紹介



参加申し込みは  
コチラから



NPO法人  
**しげまさ子ども食堂**  
ーげんき広場ー

お問い合わせ TEL:0974-22-1113 FAX:0974-22-2433  
MAIL:shigemasakodomosyokudou3@gmail.com

この研修は、豊後大野市市民提案型協働のまちづくり活動推進事業の助成を受けて実施しております。



研修チラシ

## 子どもが安心して話せる「投げかけ」を知りたい

しげまさ子ども食堂は豊後大野市で、子ども食堂、小学生を対象にした子どもの居場所、中学生を対象にした学習支援を行っています。居場所を開設してから2年たち、事務局長の首藤さんから、子ども支援者向けの研修を大分県でも実施したいというご相談を受けました。そこで、支援現場の現状を把握するため、講座と事例検討会を行いました。

## 答えやすい質問を意識する

研修プログラムは対面講座と事例検討会を9月、10月に4日間実施。その間にオンラインによるフォローアップを2回行いました。講座では、子どもが安心して話せるための投げかけ方を理解するために、子どもの権利についての情報提供や支援現場で信頼関係を築く投げかけを研修したほか、事実質問での対話ワークに取り組みました。参加者からは、「今まで答えやすい質問を意識したことがなく、練習が必要だと思った」といった声が聞かれました。



中学生への学習支援(提供:しげまさ子ども食堂)



ひとり親家庭へのお弁当配布(提供:しげまさ子ども食堂)



研修の様子(2023年9月大分県豊後大野市)



## 「ルールを理解してもらえない」？

事例検討会では、これまでの子どもへの投げかけを振り返る時間を持ちました。ある参加者から「子どもにルールを守って欲しいけれど、理解してもらえない…」という話があり、具体的にどんなルールなのか、また最近ルールを守れなかった時はいつだったのか、その場にいた子どもや他のスタッフの言動を思い出しながら、「ルールを守れなかった事例」について時系列で表に整理しました。



### 整理して分かったこと

- ・そのルールをつくる時に、子どもの意見を聞いたことがなかった
- ・1年前にルールを口頭で伝えたきり、子どもたちに覚えているかを確認したことはなかった
- ・Aさんが守れなかった日、複数のスタッフがルールを守るように繰り返し伝えていた
- ・子どもがルールを破って困っていたのはスタッフで、子ども自身が困ったことはなかった

この参加者の団体では、研修後、ルールそのものを見直すことになりました。また2024年1月に研修プログラム事業報告会を実施し、参加者が研修での気づきを発表しました。特に、しげまさ子ども食堂では、スタッフ間で共通理解を持つことの重要性に気がつき、スタッフミーティングの機会を増やすことになったそうです。



紙芝居イベント(提供:しげまさ子ども食堂)



### 参加者の声 (NPOスタッフ)

「地域の子どもの話を聴けるように」

研修で、子どものためのルールと思っていても、スタッフが子どもにやって欲しいから作ったルールがあることが分かりました。研修後は、歯磨きなど大人がやらせたいけれど、小学生の低学年では、まだやる意味を分かっていないことは無理に声掛けするのをやめました。代わりに、居場所に来てすぐにして欲しいことを3つくらいに絞って、紙に書き、子どもが思い出すきっかけをつくっています。

地域でホームスクーリングをする中学生には話を丁寧に聞けるようになりました。以前は子どもが話す出来事について背景を知りたくて「何か理由があるの?」と聞いていました。研修後は、その子の行動を時系列で聞いていくと、ご家庭での様子や学校の先生や友達とのやり取りがありありと分かり、私が勝手に思い込んでいた状況と、実際の子どもの状況は大きく違うことが分かりました。

今後も自分の思い込みに引っ張られすぎず、まずは子どもの話を丁寧に聞いていきたいと思えます。



### 参加者の声 (中学校教員)

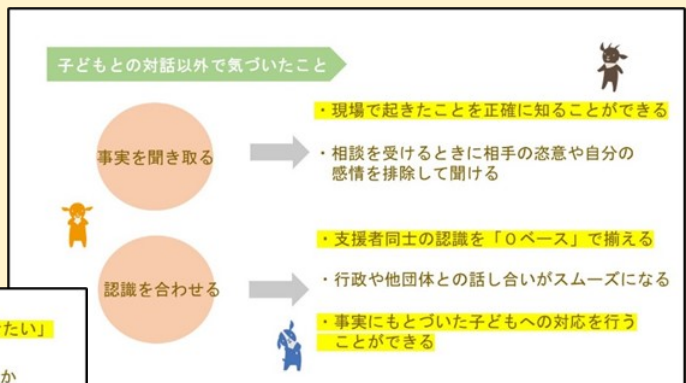
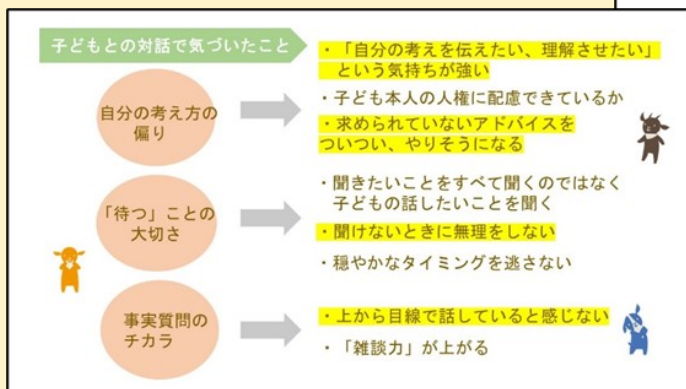
「答えやすい質問を心がける」



講座で印象に残ったことは、相手が問題だと思っていることを事実質問で聞くワークです。教員なので普段聞くことが多いので、聞いてもらうことが新鮮に感じました。事実質問で自分が問題だと思っていたことを細かく聞いてもらえたことで、「話を聞いてもらうことが嬉しい」と気づきました。自分のことなのにすっかり忘れていたことを思い出して、自分の思い込みに気がつくもありました。

学校で実際に生徒の話を実事実質問で聞いてみました。発語に遅れがある生徒でも、思い出して答えてくれるので、会話がいつもより長く続きました。考えるより思い出す方が子どもにとって負担にならないことがよく分かりました。

私がそう感じたように、子どもにとって自分の話したい事を聞いてもらえることは嬉しいですし、聞いてくれる人の話はよく聞いてくれます。今後は機会があれば、大学生のボランティアにもお話を聞いてみたいです。



事業報告会スライド (作成:しげまさ子ども食堂)



## 協力団体の声

(特活)しげまさ子ども食堂 事務局長 首藤文江さん

きっかけは、「どう思う?」「どうしたいの?」と子どもに聞いたとき、困ったような顔で何も話してくれず、「あれ?これは私の投げかける質問に問題があるんじゃないかな?」と感じたことが始まりでした。そのうちに「子ども自身の本当の気持ちなんだろうか?」という不安が起きました。

私たち子どもの周りにいる大人は、子どもたちにとって良かれと思い、いろんな活動を行っていますが、「本当に子ども自身の声を聴くことができているのか。」この疑問から始まり、「質問する」ということについて考えるようになりました。まず、自らオンラインのメタファシリテーション講座ステップ1から3までを受講しましたが、頭で理解しても、思うように質問できな

い。それ以上に、自分自身の「質問の癖」が大きく立ちはだかっているのを強く感じ、このモヤモヤをみんなと共有したいと、今回、豊後大野市市民提案型協働のまちづくり活動推進事業の助成を頂き、企画、実施致しました。

研修には、現在進行形で子育てをしている方、教師を退職して子ども支援に携わっている方、行政としてかかわっておられる方、それぞれの立場で子どもたちの声を聴くことを学びたいと、団体スタッフや子どもに関わる人々19名が参加。

研修を受けながら、自分の考え方の偏りや、聞きたいことを我慢する忍耐、質問がスムーズに出てこない、コミュニケーションが止まってしまう…など、様々な疑問や戸惑いが新たに生まれることを感じながら、対面でのワークショップやオンラインでのフォローアップを行いました。

今回研修を受けたことで「子どもに関わる」ことについて質問の仕方だけでなく、大人のゆとり(働き方)や心のケア、大人同士のコミュニケーションをたくさんとることの重要性などにも気づきました。



ご案内 ムラのミライの講師/コンサルタント派遣

## 子どもたちが安心して話せる「投げかけ」を学んでみませんか？

事業担当＝山岡美翔（ムラのミライ事務局長代行）



子どもの話を聞きたいのに、子どもに話してもらえなかったり、大人の方から一方的に話をしてしまったことはないでしょうか。子どもが話しにくそうな時は、まず、子どもが答えやすいシンプルな投げかけをすることで、子どもたちは安心して自分の話ができるようになります。

支援者が相手を尊重し、信頼関係を築くメタファシリテーション手法を学ぶことで、「支援者と子ども」という、力の差が明らかな関係をお互いを尊重し合える関係に変えていくことができます。

日本では2023年にこども家庭庁がスタートし、子どもの声を取り入れた取り組みや、行政がNPOと協働する機運が高まっています。みなさまの団体でも「子どもの権利にもとづく支援アプローチ」を学び、現場での事業運営に活かしてみませんか。

### 支援者研修の企画、コンサルテーションのご依頼

- ・「子どもの話を聞く技術」90分セミナー（対面/オンライン）…77,000円（税込）
- ・支援者研修（対面/オンライン）
- ・支援活動へのコンサルテーション・伴走支援

などのメニューから、内容・予算に合わせて、ご相談・企画いたします。  
研修費に使える助成金・補助金を探すところから始めることもできます。  
関心がある方は、お問合わせフォーム（右QRコード）にてご連絡ください。



# Report2 子どもが安心して話せる大人を増やそう-2 ひとり親家庭支援者研修への講師派遣@兵庫

期 間 2023年12月～2024年2月  
場 所 兵庫県西宮市  
協 働 (特活)こどもサポートステーション・たねとしずく  
助 成 (特活)しんぐるまざあず・ふぉーらむ (だいじょうぶだよ!基金)

## 兵庫・大阪でひとり親支援や子どもの居場所づくりに携わる方々と

兵庫県西宮市で、子ども支援NPO(特活)こどもサポートステーション・たねとしずく(以下、たねとしずく)と協働で、ひとり親家庭支援者を対象とした支援者研修を実施しました。オンライン研修(4日間)と対面研修(2日間)をそれぞれ実施し、研修後のフォローアップとして、兵庫、大阪でひとり親支援や子どもの居場所を開設しているNPOを訪問しました。

**ひとり親家庭支援 支援者研修**  
ムラのミライに学ぶ「メタファシリテーション®講座」

**STEP 1 話を聞く技術基礎**  
ひとり親家庭を支援する際に役立つコミュニケーションの技法「メタファシリテーション®」の基礎をオンラインで2回に分けて学びます。  
メタファシリテーション®講座ステップ1 (計6時間)  
第1回日: 12月10日(日) 10:00-12:30  
第2回日: 12月17日(日) 10:00-12:30  
オンライン開催

**メタファシリテーション®とは**  
相手の話を聞き、相手自らが課題を分析することを目指す手法  
×こちらが言わせたいことを言わせる手法

**STEP 2 話を聞く実践練習**  
STEP 1で学んだことを復習し、参加者同士で話を聞き合う練習をします。相手の自己肯定感に配慮したコミュニケーションを身に付けます。  
メタファシリテーション®講座ステップ2 (計6時間)  
第3回日: 1月20日(日) 10:00-12:30  
第4回日: 2月4日(日) 10:00-12:30  
オンライン開催

**一気に学ぶ2回コース**  
上記の講座を2日間で習得する対面コースです。1回5時間、短時間でメタファシリテーション®の基礎と実践練習を学ぶことができます。  
2024年1月6日(土) 10時~19時 (所要1時間)  
2024年1月13日(土) 10時~19時 (所要1時間)  
場所: たねとしずくライブラリー (西宮市六通寺町12-6)

**＜講座申込＞**  
QRコードを読み取り、申込事項をご記入の上お申し込みください。応募多数の場合は参加状況を考慮の上、抽選させていただきます。  
-参加費無料  
-随時お申込みください。  
-締め切り10月31日

**1回以上リアルタイムでの講座参加した方の欠席の補講として、アーカイブをご用意いたします。**  
また、メタファシリテーション®を手にする方へも動画の教材動画があります。

**「子どもの話をもっと聴きたい！」**  
その「なんで？」を「いつ？」に置き換える

主催: NPO法人こどもサポートステーション・たねとしずく  
講師: 認定NPO法人ムラのミライ  
※事業費はしんぐるまざあず・ふぉーらむの「だいじょうぶだよ!」基金の助成を受けて実施しております。

研修チラシ

## 相手が話したいことから聞く

まずは、メタファシリテーションの基本である事実質問や自己肯定感への配慮について研修をしました。参加者からは、現場で実際に話を聞いたかった場面について経験を話していただきました。

特に多かったのは、子どもたちと一緒に時間を過ごす際に何から聞けばいいのかということでした。研修では、保護者や子どもとの会話事例を通して、「支援者が聞きたいことから聞く」ケースと、「相手が話したいことから聞く」ケースを比較しました。また、話を聞きたい場面を絞り込んで、対話の練習をしました。子どもの居場所運営をする参加者が「今まで子どもと一言、二言で終わっていた会話が深まり、ゲームの話を入り口に初めて知る話をたくさん聞くことができ嬉しかった」とお話を聞かせていただきました。



研修の様子(2024年1月兵庫県西宮市)



## 聞いて、聞かれて、コツをつかむ

実践練習では、参加者が3人一組となり「保護者／子どもと話したかった」直近の事例をお互いに聞き合うという対話ワークをしました。聞き手、答え手、オブザーバーの三役をローテーションしました。参加者は聞き手の番が回ってくると、今まで意識していなかった「相手が答えやすい質問」を考えるのに苦労していました。また答え手にもなることで、相手が答えやすい質問のコツを掴んでいた方もおられました。



研修の様子(2024年1月兵庫県西宮市)



### 参加者による振り返り

- ・自分の悩みを聞かれることで、事実質問の答えやすさがよく分かりました。
- ・思い出すだけでいいので、答えるのが簡単で時系列にだんだんと整理されていきました。
- ・まずはよく話してくれる子どもが話したい話題で聞く練習を重ね、だんだんと困りごとにも聞けるようになりたいです。

## 現場から、研修をふりかえる

オンライン、対面での研修が終わった後、希望された5団体へのヒアリングを行いました。特に大阪府の団楽長屋プロジェクト、(特活)HALE ONO子ども支援プロジェクトのスタッフの方にはお時間をいただき、現場を見ながら、研修後のお話を伺うことができました。2024年度は、研修に参加する時間がない方も、子どもと話すヒントになるような教材を開発できればと思います。引き続き皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



団楽長屋プロジェクト(大阪府)



(特活)HALE ONO子ども支援プロジェクト(大阪府)



### 参加者の声 (NPOスタッフ)

#### 「困りごとを聞いてみると…」

就労支援をしている利用者さんが、職場のAさんが苦手という話をしていました。「最近、Aさんと話したことないの?」と聞くと、実はそれなりに会話をしていたことが分かり、Aさんへの苦手意識が薄らいだようでした。困りごとの中には、本人さえも気が付いていない思い込みが入っているものなどなど発見でした。



### 参加者の声 (学生ボランティア)

#### 「答えにくい質問に気づけるように」

事実質問を使ってみると、口数が多くない友人でもテンポ良く答えてくれました。あと答えにくい質問に気づけるようになりました。ある施設のインタビューで「対応はどうでしたか」と聞かれて、スタッフを目の前に「よかったです」としか言えませんでした。その後「なんでそう思ったのですか?」と聞かれ何も答えられませんでした。

## News 2024年度の新たな活動予定

### セネガル ティエス州南部における土壌劣化防止と小農のレジリエンスを促進する農地生産性向上プロジェクト

2024年3月から2025年3月  
土壌劣化の影響を激しく受けているティエス州南部の1か村で、土壌劣化の仕組みを科学的に理解しつつ、生産性を向上させる栽培計画や圃場デザインを村で実践、それを維持管理できる村人を育成します。また、村内全域にかけて、土壌流出を防ぐ土留めを十数か所設置し、既存のため池の機能回復・強化のための整備も行います。

### 日本(5か所予定) ひとり親家庭サポート地域拠点強化事業 ~ひとり親家庭が地域とつながる本と笑顔の居場所プロジェクト~

2024年3月から2025年3月(活動期間:2024年5月から2025年2月)  
休眠預金を活用した助成プログラムの資金分配団体となり、助成対象団体(5団体予定)への資金的/非資金的支援を実施します。各団体はそれぞれの経験を踏まえて、本のある地域拠点を整備し、担い手の育成や仕組みづくりに取り組むことで、ひとり親家庭の子どもや親が「本のある地域拠点」で安心して交流でき、地域社会全体が安全で居心地の良い場所となることを目指します。

### 日本(オンライン) NGO等向け基礎から始める国際協力事業研修

2024年3月から2025年3月(研修実施:2024年5月から2025年2月)  
草の根技術協力事業などの国際協力プロジェクトを実施しようとする団体向けにJICAが主催する研修を、今年度はムラのミライが受託して企画・実施することになりました。  
新たなオリジナル教材として、ファクトチェックを繰り返しながらプロジェクトのロジックを検証する「ロジック検証チャート」を作成。研修に参加された方が、自団体のプロジェクトのロジックを事実に基づいて検証し、具体的でシンプルなプロジェクト事前評価をおこなうことを支援します。

### 日本(関西地域) 団体の強みを活かす子育て支援~NPO組織基盤強化モデル構築~

2024年4月から2025年3月  
ひとり親家庭を支援するNPOが、自団体の経験を言語化し、中長期的な活動計画や担い手育成に取り組むことができるよう、(1)支援方針を策定するためのワークショップを実施し、開催マニュアルを作成します。(2)支援現場で使えるフォーマット集を作成します。



# 30周年記念募金のご報告



実施期間: 2023年10月から2024年3月

募金件数: 54件

募金金額: 925,000円

ムラのミライはおかげさまで設立30周年を迎えました。

30周年記念募金に、多くの皆様からあたたかいご協力をいただきましたこと、心より感謝を申し上げます。これからも私たちは、国内外で地域コミュニティが資源を維持、活用、循環させる仕組みや暮らし方を、創り出していく活動を続けていきます。

ムラのミライの活動に引き続きご参加、ご協力をいただけましたら幸いです。

## 寄付者からのメッセージ

- ・30周年、おめでとうございます。これからも世界と日本の社会活動の担い手の育成のリーダーシップをとってくださればと思っています。
- ・いつも、ずっと応援しています。私自身の海外での経験、また日本の田舎での経験から皆さんの考え、活動に大変共感しています。
- ・30周年おめでとうございます。これまでの働きに感謝を込めて。
- ・設立30周年おめでとうございます。「なぜ? どうしてしなかったの?」を聞かない! 私の人生をイライラしなく人間関係を豊かにしてくれています。ありがとうございます!
- ・次の30年に向けて、応援しています!!
- ・30周年おめでとうございます。家事育児が落ち着きましたら、また勉強会に参加させていただきたいと思います。
- ・メタファシリテーション講座を受けて、対等で円滑なコミュニケーションのための手法を学ばせていただきました。セネガルでのご活動も応援しております。
- ・メタファシリテーターとしては落第な支援活動を行っています。福祉の世界でも、「意思決定支援」、「本人中心」といったことがさんざん言われていますが、なかなかうまくいきません。試行錯誤し続けます。
- ・意義のある取り組み、尊敬いたします。少しでも応援させていただきます。

# ムラのミライについて

## 「ない」ことは本当の問題なのか？

認定NPO法人ムラのミライは、1993年に岐阜県高山市で設立されました。設立当初は「インド山村部の貧困層を助けよう」と、識字教室や収入向上活動など、「ない」ものを投入する支援から始まりました。しかし、さまざまな活動を経て、都市化と市場経済化の進展がコミュニティとコミュニティの維持してきた自然資源やセーフティネットを衰退させ、多くの社会課題を生んでいること、それが海外・日本に共通する構造であることに気づきました。



## 地域づくりで、医療で、子育てで

「●●がないから、××ができない」という思い込みをひっくり返し、住民を本気で課題解決に向かわせる力を持つと、高い評価を受けるようになったメタファシリテーション手法。この手法を書籍やセミナー・研修で伝え、住民の行動変化を促すスキルを持つファシリテーターを育成してきました。国際協力分野だけではなく、日本国内での地域づくりや、医療・福祉、子育てといった分野で実践する人が増えつつあります。



## コミュニティに「ある」ものを引き出し、課題解決を促す

そこで、住民との対話を通じてコミュニティに「ある」もの＝彼らの持つ経験や知識を引き出し、住民自身による課題分析・解決を促す「メタファシリテーション」手法を開発。徹底的に住民主体にこだわり、インド、ネパール、セネガルで、コミュニティが資源を維持、活用、循環させる仕組みや暮らし方を創り出すためのプロジェクトを実施してきました。



## ご寄付やサポーターを募集しています

ムラのミライはこれからも、日本と海外の地域コミュニティで、より多くの人々がメタファシリテーションを使って、その地域の人々が選び取る未来を実現していくお手伝いをしていきます。具体的には、  
-日本・海外でプロジェクトの段階に応じた研修やフィールドワーク型研修を企画・開催していきます  
-メタファシリテーションの事例やQ&Aを蓄積し、ブログや書籍で発信していきます  
-国内外のより多くの人々に講座を届けるため、ムラのミライ認定メタファシリテーション・トレーナーを養成していきます  
-若い世代に安価に講座を受講してもらうための仕組みをつくります

ぜひ会員・サポーターになって、メタファシリテーションの進化・広がりを応援してください！  
あなたの毎月のサポートがファシリテーターを育てます。

ご寄付・サポーターお申し込みはこちらから <https://muranomirai.org/support/>



「メタファシリテーション」は特定非営利活動法人ムラのミライの登録商標です。（登録第6591412号）